



プラスチックリサイクル方針の丁寧な説明を

問

答

計画を精査、早い段階での説明をめざす

問 五反田区にある環境プラザ建設時の地元説明の内容の認識は。

環境課長

15年前のことで、詳細な内容は確認できなかったが、建設予定地周辺地域の皆さんに計画を説明し、ご理解を得て建設に至ったと認識している。

問 環境プラザ周辺開発が住民認識と違っていないか。

環境課長

平成14年の段階で、非農用地設定の際の計画ではリサイクル施設及び公園となっている。しかし、現在の町の状況や町を取り巻く環境の変化で、大きな公園を建設維持するのは困難な状況。今後はまちの魅力を高め、新たな仕事を生み出し、地域の活力を高めることが優先と考えている。



問 プラスチックリサイクル研究会の活動の内容と合意点は。

環境課長

平成25年3月に、産学官で構成するプラスチックリサイクル研究会を立ち上げ、プラスチックリサイクルシステム構築を目指し研究を行った。活動内容は、プラの組成分析調査、油化・燃料化する技術、油化の安全性や事業性の検証、プラスチックの収集可能量調査、運営シミュレーションなどの研究を実施。みやま市、筑後市、柳川市、八女市、オプザバーとして広川町、大川市、そして大木町の7自治体で平成32年までにプラスチック1,200トン収集を目標に、民間による事業化を目指すことなどを合意。※容リプラ

の二次選別・再商品一体化施設のモデルとして環境省も注目している。

問 プラスチックリサイクル事業の効果と課題は。

環境課長

大木町のプラスチック回収量は全国平均を下回り、まだ



まだ燃やされているプラスチックが多い状況。

環境プラザ隣接地に施設を誘致し、一定の使用料収入、固定資産税、法人税等の税収が見込まれ、さらに一定の雇用効果も見込んでいる。先進的な廃プラスチックリサイクルシステムを築き大木町が環境先進地としてさらに注目されると考え、周辺への環境影響を与えないことを前提に施設の誘致を実現したい。

問 町民の皆さんの合意形成、説明方法や時期は。

環境課長

業者からの企画提案が熊本地震の影響で6月末に延び、関係自治体で内容を審査し誘致候補の企業を選定したい。内容が具体化した段階で、早い時期に議会に説明し、続け

て地元への説明を行い、住民の皆さんのご理解を得たいと考えている。

※容リプラとは

容器包装リサイクル法で対象になっている中身を取り出した後、使い切った後に不要となるプラスチック製の容器（入れもの・袋）や包装（包み）のこと。



五反田にある町有非農用地